

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701021		
法人名	社会福祉法人順和会		
事業所名	グループホーム陽なたほっこ		
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽4463		
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果市町村受理日	令和4年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然に囲まれ雄大な阿蘇山の麓に陽なたほっこはあります。鹿の親子や猪も芝生に来て皆の目を楽しませてくれます。職員の年齢層は幅広くお互い意見をだし合いながら入居者の皆様の日々の暮らしに寄り添えるようにしています。当事業所は介護支援専門員、介護福祉士や看護師等有資格者を配置し専門性を活かしよりよいケアが出来る環境を整えています。又、特別養護老人ホーム、デイサービスを併設し連携がとれる体制になっています。昨年から続いているコロナ感染拡大防止の為、毎日消毒、換気、間隔をあけての生活に心掛け阿蘇立野病院・特養等リモート勉強会を開催”感染しない”を目標に日々のケアに努めています。コロナ禍で外出等できない分クリスマスケーキを自分達で作る、外の芝生で焼きそば・たこ焼き会食を楽しみ心外食の変わり目カップラーメンを食べて頂く等、毎日の生活が楽しくなるよう工夫しています。毎月の手紙と一緒に送る折々のスナップ写真は家族に好評です。コロナをきっかけに生活様式は変わりましたが柔軟に対応しここで良かったと思える場所を提供できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ感染症への対応が続いているが、今年度は経験を積んだ管理者やそれを支える2名の主任の配置により、温もりと安心の支援が更に充実した年となっている。また、手書き記録の改善や、有給休暇の取得、時間外勤務を減らしていくなど、働きやすい職場環境についても検討、改善が図られている。医療機関との連携、職員のスキルアップに繋がる研修体制、高齢や常食が困難になった方へも管理栄養士による食事面の支援、営繕課職員による備品の管理や敷地内の手入れなど、法人の機能が活かされた運営は入居者の日常を豊かにし、家族の安心・信頼に繋がっている。地元消防団との年末の夜警をはじめ地域との連携や家族との自由な面会、季節ごとの外出など制限されていることが多い現状であるが、職員は早い収束を願いながら、今できる事に意欲をもって取り組んでいる。今後も職員やホームが入居者にとってかけがえのない存在となるよう努めていかれることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である「ぬくもりと安心の福祉」を基に当事業所の「5つの暮らし」の理念を作成継続している。名札の裏に携帯しいつでも確認できるようにしている。月末の会議時には毎月ではないが理念の唱和(サブタイトルまで)を行っている。玄関、各箇所にも掲示している。事業所広報誌にてご家族や民生委員さんにも知らせている。	ホーム誌「陽なたぼっこだより」に基本理念「5つの暮らし」を掲載し家族への啓発としている。入職する職員へは理念を通してホームの在り方を伝えている。勉強会では「ぬくもりのある暮らし」に焦点をあて、その人にとっての「ぬくもり」を入居者や職員の立場からあらためて考える等、現点に立ち返る機会をもっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度もコロナ感染拡大防止の為、外部からの訪問は必要最小限にとどめている。少し収まっていた時期には外出(紅葉見物、震災跡地見学)を行い地域の方々と触れ合う事が出来た。現在病院受診以外の外出は控えており1日でも早いコロナの終息が待たれる。	コロナ禍にあっても社会の状況を見ながら入居者が地域へ出る機会を支援している。行政の広報誌を見て「熊本地震で被災した場所を見てみたい」との一言から外出に繋がったり、車中からのどんどや見学や法人施設もお隣さんとして入所する兄弟との面会に出かける等、できる事で地域と関わりながら生活できるよう工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度もコロナ感染拡大防止の為、小・中学生の体験学習を受け入れていない。ボランティアも受け入れていない。認知症の方々の暮らしの様子を事業者だより(広報誌)にて地域の人々に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であるため、2ヶ月に1回、文章での運営推進会議を実施。運営状況やホームの実際、事故、転倒等について周知徹底を図っている。現状もオミクロン株が急増し運営推進会議を開催する見通しがたたないため、今後も文書による報告で情報を発信していく。	運営推進会議は行政への資料提出による書面審議として開催している。法人全体で取り組む人材確保、定着に向けた各関係機関との現状報告や、行事に参加する入居者の生き生きとした表情を写真と共に伝えている。また、職員の資格取得への取組や、各研修の実践状況などを報告している。	今後の通常開催を念頭に民生委員や区長などの地域代表者及び家族へ向け、会議への参加依頼を検討頂きたい。また、身体拘束の取組についても発信し、更に運営の透明性を図る事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人を通して当時業者の取り組みや現状を報告している。又、訪問調査を利用し直接伝える様にしている。法人職員が役場へ出向く機会もあり関係は良好である。	書類上の手続きは法人を通じて行っており、行政との良好な関係が継続されている。認定調査にはこれまで通り職員が立ち会い、入居者の現状を伝えている。運営推進会議の資料を通じてホームの現状を報告し、コロナ禍の中ホーム内が見えにくい状況にあるが、正確な情報発信が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており3か月に1度実施している。又、勉強会も定期的に行い身体拘束の事例や普段の何気ない声掛けがスピーチロックに含まれる事について勉強している。入居者の方の中には安全確保目的にてセンサーマット等使用しているが御家族へのインフォームドコンセントを行い、ご理解・承諾を得ている。	理念を基に入居者の意向に沿ったケアの実践に努力している。入職後の新人研修で身体拘束についてホームの方針を伝え、定期的に法人研修に参加して拘束についての認識を深めている。法人によるアンケートの実施や、個別の相談に管理者が対応するなど職員のメンタルに配慮している。	職員の言葉使いについて「待ってください」の後の言葉のフォローやトーンには今後も気を引き締めたいとの意向であり、継続した取組に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し虐待防止に努めている。個々の職員が心身ともに健全な状態で穏やかに業務につけるようにしている。また、適宜業務内容の見直しを行い記録の簡素化を図りより余裕をもって業務に取り組めるような環境作りをし職員の負担を軽減する事も虐待防止に繋がると考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護に関する勉強会を実施。入居者に対しては、人として尊重されていると本人が実感できるような支援を行っている。ご家族からの問い合わせについては、法人等と連携を図ることで速やかな対応ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は、入居前、又は入居時に契約書及び重要事項説明書等にて説明し理解、納得された上で契約をしている。料金改定等の際には、書面にて通知。疑問点等の問い合わせについては、法人・事業所にて対応しており、十分な理解、納得が得られるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に関しては、担当制を実施しており、意見や要望の聞き取りをに対応している。ご家族等に関しては、面会の制限があるため、電話や手紙での相互連絡の際に意見、要望等の聞き取りを行っている。収集した意見等は運営に反映できるようケア会議や広報を活用して外部への発信に努めている。	面会が制限された中で、毎月の個別の便りや年4回発行するホームだよりは、家族の安心するところとなっている。現在は電話にて家族の意見を聞き取り、入居者の要望は普段の会話から拾いながら支援に反映させ、気になっておられた自宅の様子を車窓から確認するなどの対応に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案に関しては、ケア会議又は普段のコミュニケーションの場で聞く機会を設けている。意見、提案があった場合は、所長・主任ですぐに検討し運営に反映させている。所長、主任間で意見等を反映させることが困難と判断した場合は、代表者へ直接報告している。普段から職員とのコミュニケーションを図ることを心掛けており、今後も小さな意見でも運営に反映できるよう努めていく。	職員が両ユニットのケアに入ることで入居者の状況把握が出来ており、ケア会議での情報共有に繋がっている。普段から意見や気づきを発言できる環境であり、管理者やユニットの主任を中心に入居者支援の充実や情報発信に職員と共に力を尽くされたことが、聞き取りや書面上からも確認された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業条件が複雑化しているが、職員個人に合わせた環境作り、条件の整備を行っている。労働時間についても、書式を変更するなど記録の簡素化を実践している。今後も職員の働きやすい環境作りに努めていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、認知症実践者研修2名、認知症管理者研修1名の受講、介護支援専門員試験の合格者1名の実績があり、働きながらトレーニングしやすい環境が整っている。外部研修に関しては、感染症等の勉強会はオンラインにて参加。研修で学んだことをケア会議で勉強会を実施し、一人ひとりのスキル向上に努めている。今後もオンラインでの勉強会には積極的に参加し、ケアの向上に繋がるよう職員全員で取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であるため、同業者と直接的な交流はないが、電話連絡やアンケートを通して情報交換を行っている。今後も出来る範囲で同業者と交流を図り、サービスの質を向上させるよう努めていく。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より関係事業所からの情報収集に努め、また本人の不安を少しでも軽減出来るよう入居前に利用されている事業所に足を運び顔見知りの関係の構築作りに努めている。また思いを伝える事が困難な方に関しては表情や身体からだされる様々な意思表示のサイン等察知し職員間で情報を共有し安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、ご家族の要望や心配事等に関して話を伺い、理念や方針を含み丁寧に説明。ご家族が理解、納得、安心される関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族のニーズに対応出来る様サービス内容を見極め提案支援に努めている。在宅で通っていたリハビリや病院に通いたい等の要望も聞かれる為、他事業所等に相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の入居者の生活歴や状態に応じて取り組める事を職員全体で把握し家事活動(茶碗洗い、掃き掃除、洗濯物干し、自室の掃除、花の水やり、漬物や干し柿づくり)等職員も一緒に行う事で互いの事を知り協力しながら生活出来る良い機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告の手紙を各担当より日常生活や行事等の写真を添え送付している。また、入居者が家族の様子が気になる、家に帰りたい等話される際は都度ご家族に連絡し精神安定に繋げている。コロナ禍で家族からも「どうしてですか？」等連絡ある際は入居者にかわり声を聞かれる事で家族も安心されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で制限はあるが、出来る限り要望に応じ気分転換の為馴染みの畑や自宅、墓や神社等にドライブに行き車中からではあるが地域へお連れしている。また、陽ノ丘荘を利用されている夫婦、兄弟、同地区の馴染の方には感染対策を行いながら可能な限り会いにお連れし交流が図れるよう支援している。	正月の餅つきやどんどや、節分の巻きずし作りの他、季節の梅や柿の保存食作りなど、入居者の出番が年間を通じて企画され、馴染みの行事や手仕事に先人の知恵が活かされている。感染症の状況を見ながら家族との関係性を考慮し、対面での面会なども実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事、家事活動の場を通して職員が間に入りながら入居者同士が良い関係を構築出来るよう配慮している。また、階は違っても同地区の方や趣味が同じ様な方々が交流出来る機会を作り関係構築に努めている。どうしても同じ階が無理だと判断した場合1F、2Fへ異動して頂き対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られた入居者への面会を希望された時は連絡を取り感染対策をし面会して頂いている。契約終了後もご家族の相談には応じている。入院中のご家族の問い合わせにも病院と連絡を取り丁寧に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	他事業所へ面会を希望される時は連絡をとり対応。又、食事で形態を変えるよう希望があった際は変えている。近くへの外出希望（自宅、畑等）の時はコロナ禍であり下車は出来ないがドライブへお連れしている。嗜好品の購入は主に担当職員が対応している。これらの情報は全職員で共有しており意思の伝達が困難な方に関してはご家族と相談しながら出来る限り本人の思いに添えるようにしている。	入居者の思いは日常の生活の中から収集し、自宅周辺へのドライブや嗜好品の購入などに繋がっている。職員を入居者の担当制としており、ケア会議で情報を共有して支援に反映させている。意思表示が困難な入居者へはこれまでの生活の様子や表情からくみ取ったり、家族の意見を聞きながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人の暮らし方等を本人、家族、知人、ケアマネージャーからの情報収集を行い出来る限り生活歴に添ったサービス提供に努めている。又、入居後も日常生活の関わりの中でその人らしい暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人別のケース記録、個人表、医療申し送りノート、申し送りノートを活用し日々の心身状況を把握し職員同士の情報の共有に努めている。行事等はその日出勤の職員に様子を聞いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍の為、御家族の参加は少ないが事前にケア会議への参加有無及び意見、要望を送付し意思確認を行っている。また担当とケアマネージャーが意見を交換し原案を作成、月末にケア会議を行い全職員で内容を討議する事で様々な要素が加わり本人の現状に即した介護計画が作成出来ている。今年度2家族の参加あり。	介護計画作成にあたり事前に家族の意見や要望を郵送にて確認し、プランに反映させている。計画作成担当者は入居者の生活歴やホームでの暮らしぶりから本人の出来る力を見極め、「ふる里に帰りたい」との思いに寄り添いながら、生活の自信となるような内容を掲げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日々の状況や心身状況をケース記録にまとめて記入し申し送りノート（一般、医療）を作成する事で情報共有が出来るようにしている。また、これらの情報は介護計画作成時の評価やアセスメントにも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染防止の為、外出、外泊については対応困難となっているが面会においては状況をみながら窓越し及び対面とかたちを変えつつ工夫しながら対応している。ご家族や医療、地域社会と連携しながら柔軟性を持って様々なサービスを提供出来るよう努力している。また、緊急時や専門の医療機関への受診については感染防止対策をとり対応実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前年度から引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の為、ボランティアさんへの依頼や老人会への参加はしていない。行政や他職種とはコロナ感染対策等の情報の共有を図り連携をとっている。今後もコロナ禍の時代に即した地域との関わりを考えていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医療機関等の説明を行い同意を得た上で主治医変更を実施している。本人、御家族の希望も尊重しながら専門医の受診対応を行っている。出来る限りご家族様にも送迎を依頼しており緊急時には職員にて対応している。ご家族の希望時は主治医と連携しICも実施している。	入居時に協力医療機関について説明を行っており、本人・家族の了承のもとかかりつけ医として2週間に1度の訪問診療と必要時に受診に出向いている。体調不良時の受診は家族へ連絡し対応を検討している。歯科は訪問にて支援しており、必要時に家族の了承の後、治療や口腔ケアが行われている。専門医受診も現在は、コロナへの対応から職員が支援し結果などを共有している。	職員による日々の健康管理や協力医の存在は家族の安心に繋がっており、変わらぬ支援の継続が期待される。
31		○看護職との協働 看護職は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご入居者の体調不良や特変時には担当看護師が報告をうけ対応している。又、法人看護師とも協働する事で適切な受診等が出来るよう医療連携体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係作りを行っている。	入院時には日常生活の状況、入院前の様子等申し送りを行いスムーズな治療が受けられるように努めている。入院中においては定期的に電話(コロナ禍の為)にて連絡を取り心身状況の把握に努めている。月に1度協力医療機関、病院関係者、当事業所の連携会議に参加し意見を交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前指定書及び重度化指針の説明を行い記入して頂いている。内容については主治医にも報告し意向の変更もある為、都度聞き取りを行っている。(1年後の更新に努めている)又、勉強会を実施し職員の理解を深め協力医療機関、法人事業所全体で支援できるよう体制をとっている。	入居時に重度化・終末期に関する指針の説明と事前指定書について記入を受けている。変更はいつでも良いことを申し添え、1年を基本にあらためて確認を行い、医師にも報告している。看取り支援については、医療機関や法人全体で支える体制が取られており、職員も研修会で共有が図られている。	看取り指針に関しては作成から年月が経過しており、見直しの必要があると思われる。取組に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当及び対応等、看護職員からの指導や勉強会を行い実践力に繋げている、又、入居者の異変や事故発生時に対応出来るよう事務所内に連携手順法を掲示している。今年度はコロナ禍の為ガウンテクニックや消毒、ゾーニング等勉強会を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月、11月に防災・避難訓練を実施。また日頃より防災の意識を高める指導を行っている。非常時に水や非常食、オムツ等を準備、また発電機等も常備している。コロナ感染防止の為、夜警活動には参加していないが地元消防団との連携はとれておりまた情報の共有に努めている。コロナ感染拡大している為、消毒、マスク着用、換気、距離を保った食事と感染防止に力を入れている。	今年は3月と、11月に夜間を想定し法人全体で防災・避難訓練を実施している。移乗が大変な入居者がスムーズに移動できなかったことなどが反省としてあがっている。開設時から地域の夜警活動にも参加していたが、現在はコロナの影響により参加はないが、連携しながら情報の共有に努めている。備蓄は法人で管理されている。	災害備蓄については、ホームでもリストを管理しておくことが必要と思われる。今後は防犯に対する心構えや、あらゆる災害への対応について検討を重ねていかれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	5つの理念に基づき入居者個人を尊重し尊厳を守る事を心掛け個人のプライバシーや誇り自尊心を傷つけないようにしている。職員の言葉かけにも常にお互いが注意しあえる様にしており勉強会や会議でも話し合っている。	ケア規範にも繋がる5つの理念を共有し、入居者の尊厳とプライバシーに配慮した支援に努めている。呼称は苗字を基本としているが、同性の方には下の名前でも対応している。同姓介助については、現在要望される方はおられないようである。管理者は会議などに限らず、普段の支援の中で「温もりのある安心の介護」を提供するホームとして、気付きや職員自身が考え支援できるよう導いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が気兼ねせず希望や思いを発言出来る様に働きかけ自己決定できるようにしている。聞き取りが困難な方に関しては日々の言動や表情などから意思をくみ取れるよう努めている。又、御家族へ尋ねる等、情報を共有し本人の意向をくみ取れる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事等大まかな日課はある。本人のペースを大切に出来る支援を行っている。一人一人の体調や気持ちを汲みレク活動、行事等への参加を勧めている。居室で新聞読みや数独を好まれる方はその様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髭剃りや整髪を行っている。訪問理容はコロナ感染防止にて中止となっている為、職員にて対応している。季節の変わり目には衣替えを行いご家族の協力のもと入居者の希望も取り入れながら衣類等の購入も行っている。敬老会や正月には化粧をされ行事へ参加されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人管理栄養士の協力の下、健康管理には注意を払いつつ刻みやミキサー食、アレルギーのある方には代替えにて提供している。誕生日には本人の希望食を取り入れ食事の楽しみも支援している。高菜折り、カレーや焼きそば、クリスマスケーキ作り等、一緒に調理し楽しんで頂いた。又、お正月には綺麗な茶碗を使用しおいしいお茶を提供。行事食はお重に盛り付ける等、味と同時に目も楽しんで貰っている。前々から希望のあったカップラーメンバイキングを栄養課協力のもと実施できたのは良かった。	法人管理栄養士や厨房の協力を得ながら、食事が提供されている。嚥下状態に応じ、キザミやミキサー食、アレルギーのある方には代替え食の準備など個別支援に努めている。誕生日には希望食を提供している。また、「とうきびが食べたい!」と、阿蘇ならではの好物も飛び出すようである。現在職員は時間をずらして持参した弁当などを食べ、検食者1名を設け記録簿に残している。	カップラーメンバイキングや入居者と一緒にクッキング(カレー・焼きそばなど)、高菜漬けの下準備など、入居者と一緒に楽しむ食への関わりが確認された。コロナ禍の中、食への楽しみ事が増えることは家族にとっても嬉しい事と思われる。今後も職員の工夫を生かした食事支援に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師を中心に管理栄養士の協力の下その方にあった食事、水分提供が来ている。起床時や食後に好みの水分(コーヒーやお茶ゼリー)等の提供により水分確保は来ている。補食、禁忌食品等への把握も目につく場所に貼り常に確認するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1度歯科衛生士と口腔ケアについて計画を立案しアドバイスを貰い日々のケアに努めている。毎週水曜日、歯科の訪問診療をうけ治療や口腔ケアを行っている。個々の状況にあわせて歯ブラシ、舌ブラシ、スポンジ等を使用している。自分で出来る方も磨き残しがないかを支援している。毎食後、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄能力に応じ対応している。排泄チェック表を活用し又、仕草や表情にも気を配り排泄パターンを掴み対応している。可能な限り日中はトイレ使用して頂いている。退院後のオムツ着用を含め個人の状態にあったパットや紙パンツ等の排泄用具を使用し随時見直しをしている。	職員は排泄チェック表を共有し、個別支援の充実に努めている。自立の方の継続や布、リハビリパンツに必要な応じたパットの併用も、大きさなど検討を重ねている。トイレ掃除の徹底と、夜間のみ使用される方のポータブルトイレも、バケツは毎日、本体は週1回洗浄し清潔に管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な食事と水分を提供する他、体操、レクリエーションを日課に入れコロナ禍で運動不足にならない様、プーリー、自転車漕ぎ運動を日課に入れ便秘対策の一環としている。排泄チェック表を用いて医師や看護師指示の下、各種下剤を用い対応している。腹部マッサージも実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴ができる体制を整えており、個々の状態に応じて一般浴と機械浴を設置している。ハーバード浴を必要とされる入居者は他事業所と相談使用させて貰った。今年も季節の湯、柚子湯や菖蒲湯を楽しんで頂いた。	毎日入浴できる体制を整え、少なくとも週2回（多い方は3回）、午前・午後で支援している。2階は一般浴、1階に機械浴が備わっており、身体状況に応じて階下に降りて入浴される方や湯舟に浸かってゆっくり入浴してもらえよう、2名介助での支援にも努めている。また、シャワーチェアも回転式に変更し、入居者や職員の負担軽減、安全な支援となっている。シャンプーなどはホームで準備しているが、お気に入りの物を個別で使用される方もおられる。	菖蒲や柚子湯も全員が楽しめる日数を継続して実施しており、今後も工夫された入浴支援に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の年齢や表情等に気を配り、意思表示の難しい方にも適宜休息を促す他、日中に体操や創作等のレクリエーション、プーリー・自転車漕ぎ運動を取り入れる事で昼夜逆転を防ぎ夜間の睡眠に繋げている。また、足枕やクッションを用いて楽な姿勢での休息や安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルに閉じ薬の内容や経過が直ぐにわかる様にしている。また、変更があった際には医療申し送りノートを活用し全職員が内容の把握が出来るようにしている。内服の準備から服薬までの間誤薬を未然に防げるよう関わる職員が都度2名にて確認し確実に服薬出来るよう対応している。日々、体調・精神状態を観察し異常みられた際は看護師へ報告対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や性格、身体能力に合った活動を模索しながら支援している。家事活動（洗濯物たたみ、お盆拭き、食器洗い等）や花や野菜プランターの水やり、季節に応じた創作活動を行い役割や楽しみ活にも繋がっている。本人のペースで生活出来る様支援している。嗜好品の購入には担当制を用いており個々の希望に柔軟に対応している。病院受診時売店での買い物を楽しみにしている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの感染拡大が続いており多人数での外出は自粛している。感染が収まっていた時期は入居者の希望で震災跡の見学に行った。車窓からではあるが桜や紅葉見物が出来た。病院受診が唯一の個人外出である。コロナが収束し以前のように美容院や老人会への参加。ショッピング等家族や地域の人々と協力し外出出来るようになる事を期待している。	外出先や人数など以前のような取組は難しかったが、状況を見ながら個別支援や要望に応じた外出が行われている。「畑や家畜などが気になる」と希望された方には、自宅へ様子を見に帰り安心されたようである。また、復興の様子や、桜、紅葉見学を車窓から楽しんでいる。敷地内は手入れが行き届き、散歩は日常的に楽しんでいる。5月には「お茶会」を開催し、抹茶と和菓子の接待に野点の雰囲気を楽しまれている。職員の工夫が活かされた1年であったことが窺える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を必要とされる入居者はご家族の承諾を得て陽なたぼっこの金庫にお預かりしている。通院時、売店での買い物を楽しみにされている方には金庫から一定額をお渡しして希望を叶えるように支援している。又、法人内のお祭りでは神輿への賽銭用にお一人お一人に小銭をお渡した。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は随時職員の介助にてかけており希望に添っている。手紙、葉書の希望は現在ない。携帯電話、スマートフォンは持たれている入居者もおられる。今年度は入居者担当職員と一緒に暑中見舞い葉書を作成。ご家族へ送付し喜ばれていた。年末の写真入り年賀状送付も続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日掃除を行いコロナ感染拡大の為、定期的に消毒をしている。リビングは明るく開放感があり温度や湿度も適宜調整している。(コロナ禍であり全員一緒にの食事は難しく各居室とリビングにわかれている。)壁には手作りのカレンダーや花も飾っており椅子の間隔はとっているが和やかに寛げるよう工夫している。廊下には行事等の写真を飾ったりトイレ、浴室への表示もわかりやすい様にしている。浴室はより清潔になり安全に模様替えを行った。	玄関入口にはプランターに植えられた季節の花苗が、外出などで出入りする入居者や来訪者を迎えている。ホーム内は掃除や換気、消毒など感染症対策と、温湿度管理を徹底し、居心地や安全に過ごせる環境に努めている。また、席の配置も間隔に配慮している。リビングや廊下には手作りカレンダーや行事の際の写真を掲示したり、「コロナ禍であるから楽しめるようにしたい」と、雛段飾りも置かれている。ホーム内の備品管理などには、法人営繕課の職員の協力が得られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるリビング内にはソファと椅子を用意し廊下にも長椅子を準備する事で個人が思いおもいの場所で過ごせる環境作りをしている。コロナ禍である為、居室の行き来については控えており椅子の間隔を保っている。また、談話室等の個室については感染予防の観点から現在使用を控えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族や本人様とは相談しながら使い慣れたタンス、ぬいぐるみ、愛着のある物や壁飾り等持ち込まれ入居前の生活に近い環境の居室空間が出来ている。家族からの手紙、年賀状、各行事のカード等、担当と相談しながら飾っている。	入居が決まった時点で、居室にはタンスやベッドが整備されており、馴染みの品の必要性を家族へ伝えている。1階、2階どの部屋からも中庭が望め、季節を感じながら過ごすことができ、特に紅葉の時期は赤く染まった木々が入居者に穏やかな時間を提供している。排泄用品などはタンスに収納することで、居室内の整頓やプライバシーへの配慮に繋がっている。テレビの置かれた部屋や持ち込まれた冷蔵庫の中に必要な品を準備されている方もおられる。また、お気に入りのぬいぐるみと一緒に就寝されるなど、個々応じた居室環境となっている。	面会を控えており、今後も家族に代わって居室の環境整備に努めたいことを期待したい。また、居室の様子なども発信することで家族との共有や安心に繋がると思われる。取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口には好みの暖簾と表札を作成している。表札を大きくしたり2～3か所に名前(表札)を貼ったり工夫している。導線上の整理整頓を行い歩行補助具を用いて安全に自立した生活ができる様に環境作りをしている。居室内はタンス、テレビ、その他の家具等の配置を本人が動きやすい様に配慮している。		